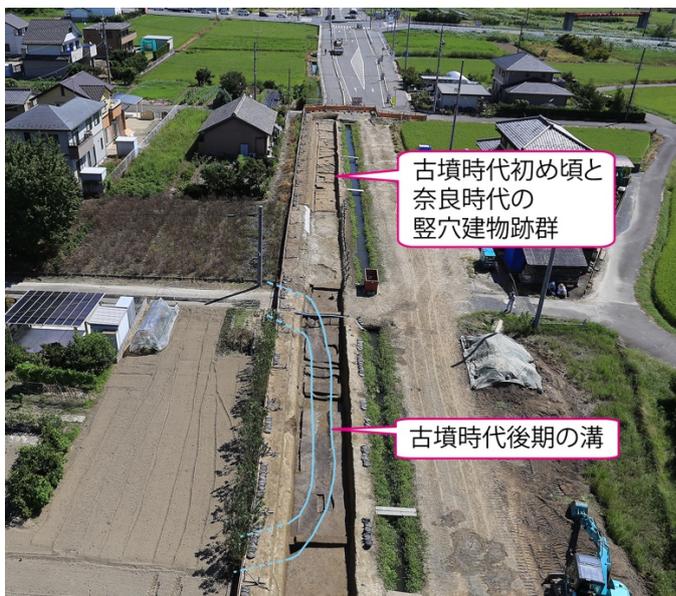


第3号 古墳時代後期の溝を検出

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
株式会社 島田組

一色城跡の発掘調査では、室町時代から江戸時代にかけての遺構の下から、古墳時代や奈良時代の遺構が見つかっています。遺構の種類は竪穴建物跡や溝が主なもので、これらは集落の一部と考えられます。

7月から進めてきた19A区は9月半ばに終了しました。この調査区の東半部では竪穴建物跡が多数見つかっています。一方、調査区中央からやや西では、幅約1.4m、長さ約25m以上の溝を確認しました。この溝は東西2か所でカーブして、調査区北側の方へ続いているようです。ちょうど競技場のトラックのようにぐるりと一周しているかもしれません。また、溝からは古墳時代後期（7世紀、飛鳥時代ともいいます）の須恵器や土師器が多数出土したので、この頃に機能して埋まっていったものと推測されます。なかでも土師器の甕は、口縁から底部まで大部分の破片が残っているのが注目されます。



図（左） 一色城跡19A区で検出された溝と竪穴建物跡群（西上空から）

（右）古墳時代後期の溝から出土した土師器の甕